

良い作品 これからも

産業界に大きな励み

東奥賞贈呈式 出席者が祝福

「これからも良い作品を」「プロテオグリカンの市場を全国、世界へ」。6日、青森市で開かれた第67回東奥賞贈呈式は、受賞した美術家の奈良美智さん、機能性素材「プロテオグリカン(PG)」の精製技術開発陣(弘前大学、角弘、県産業技術センター)の偉業をたたえ、出席した関係者から、さらなる活躍への期待を込めたメッセージと温かい拍手が送られた。(本紙取材班) 【本記1面】

奈良さんへの祝辞は、弘前市のNPO法人harappa理事長の三上雅通さん(65)。三上さんは、弘前市の吉井酒造煉瓦倉庫で大きな成功を収めた奈良さんの展覧会にボランティアスタッフとして関わった。アート活動を展開する同法人は、その成果の一つとして設立された。

三上さんは「奈良さんの作品からは、何かしらの声が聞こえてくる。ちょうど糸電話のように、ひっそり

と、私たちの心にダイレクトに響いてくる」などと作品の魅力を紹介し、「これからもいっばい良い作品をつくり続けてください」と激励した。

一方、奈良さんは文化庁の芸術選奨やニューヨーク国際センター賞などの受賞歴があるが、「授賞式に出たのは初めて」とあいさつで明かし、「それは古里が好きだから。青森県だから」と古里愛をにじませた。5日には55歳の誕生日を迎え

て弘前高校時代の友人たちに祝ってもらったエピソードなどを披露し、会場を和ませた。

PG精製技術開発陣への祝辞を述べた県プロテオグリカンブランド推進協議会の榎引利貞会長(カネショウ社長)は、2011年にスタートした協議会の会員企業が63社に増え、「あおりPG」ブランドの認証商品は100品目を超えていると報告。「今回の受賞は、産学官の連携が見事に成功した結果。産業界にとっても大きな励みになる。企業の参画により今後も事業化を進め、全国、世界をリードしていきたい」と語った。

また、記念祝賀会でスピーチした角弘プロテオグリカン研究所の米塚正人所長

は、2004年に東京で開かれた研究発表会で、ノルウェーやフィンランドの企業から工場を建てないかと持ち掛けられたエピソードを紹介。「世界中がライバルになり得る」とし、「PGはカラーゲンなど先行している素材に比べるとまだ駆け出したが、大きく市場が広がる可能性がある。受賞を励みに、今後も頑張っていきたい」と意欲を見せた。

東奥日報 平成26年12月7日(日)22面掲載

この画像は当該ページに限って

東奥日報社が利用を許諾したものです。